

荒川区清掃審議会（平成21年度・平成22年度第1回）における要望等に関する資料について

事項	要望等の要約	関連資料
1 環境教育について	<p>学校教育の中でどのように子どもたちに教えているのか。特に資源のリサイクルは、ごみの減量化ばかりではなく、消費エネルギーの極めて大きな抑制につながっていくと思う。例えば、新しいアルミ缶を新しいものでつくったものを100としたならば、リサイクルによって97から98節減できると思う。そういうことを教育現場の中で教えることによって、家庭に持ち帰って、家庭の中でいろいろな話し合い、家庭での啓蒙につながっていくのだと思う。</p>	資料1
2 海外での先進事例について	<p>国内だけで見ているとなかなか比較ができないので、リサイクルや環境先進国の海外の事例について、教えて頂きたい。</p>	資料2
3 排出抑制に関連して	<p>これからはリサイクルの徹底が大変重要だが、その前にリデュース、リユースのできるだけごみを出さないとか、何度も使うとか、それをメーカー・販売店・消費者みんながやるべきことで、そこがとても大事だと思う。そこで、その動きが明確に分かるために、ごみを減らして資源回収に出したけれども、暮らしの中で物を大切にしておくと資源の総量も減ったという数字がどのくらいか、<u>ごみと資源を合わせた一般廃棄物総量の数値、全体を合わせたグラフ</u>を出して頂くと、これから議論するときの大事な資料の一つになると思う。</p>	資料3
4 生産者（事業者）の役割について	<p>個人の努力には限度があり、やはりメーカー責任をどうするかと考える。例えば、家電リサイクルについても個人ではもう限界がある部分が見えてきている。見えてくるのではないかと思う。<u>そういった部分に区としての対応をどう考えているのか</u>、教えていただければ今後の審議の参考にしたいと思う。</p>	資料4-1 資料4-2
5 サーマルリサイクル・廃プラスチックについて	<p>可燃ごみの組成の変化があるが、<u>廃プラスチックはどんなふうに移しているのか</u>。</p>	資料5-1 資料5-2
	<p><u>23区でサーマルをしているところと、再利用のほうに廃プラスチックを回しているところと2つに全体勢力が分かれてしまうのですが、この辺の比較検証があれば、ごみ全体の関係でいうとどうなっているか。</u></p>	資料5-3 資料5-4
	<p>大型の焼却施設との関係で、ごみ量が減れば、当然、サーマルの全体のカロリーも減ってくるということで、<u>ごみを集め続けなければいけないという問題</u>。この辺の関係はどうなっているか。というのは、燃やして埋める、そこからどう脱却していくかが将来的な問題としては一番大きな問題だと思う。</p>	資料5-5
	<p><u>可燃ごみが圧倒的に増えたのであれば、CO₂がどの程度増えたのか</u>教えていただきたい。</p>	資料5-6
6 区として考える課題について	<p><u>検討している課題が行政内部であれば示して頂きたい。</u></p>	資料6